

平成13年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

江戸時代に女性が供養した寺院の鳴らし物

お寺には、色々鳴らし物があります。まず山門を入ると目に付く鐘楼の梵鐘。本堂に上がれば、その上がり口の左右どちらかに半鐘や板^{はん}（四角い板で槌で叩く物・朝を知らせたり坐禅の前などに叩く）。堂内に入れば、大きな木魚や磬子^{けいす}（お鈴の大きな物・お読経の前や最中に鳴らす）。変わったところで、槌礎^{ついちん}（亡くなった和尚の法事に使う）等など。この中で一番目に付くのは、やはり梵鐘だと思います。また、梵鐘には銘文があがるため、資料としても貴重な事もあります。青梅市内で現存する最古の梵鐘は、根ヶ布の天寧寺のもので、三田弾正忠政定が大永元年（1521）に寄進したもので、国の重要美術品に指定されています。このような作られた当時の物が、現在まで残っている梵鐘は、市内で6鐘しかありません。ところで、残念ながら第二次世界大戦で提供されてしまった梵鐘の中に、女性達が寄進したものがありました。新町の東禅寺にあったものです。今、同寺に残っている古い梵鐘の銘文の拓本には、最後の方に「念佛以助錢奉造立者也 願主 花盛妙春尼 同志八拾五人女 時享保元歳旅丙申霜月吉旦 見住比丘松山碩秀謹題・・・」とあり、八王子の横川の加藤相兵衛吉政が鑄造したとあります。江戸時代の享保元年（1716）に花盛妙春尼という尼さんが主体となり、85人の女性の力によって、この梵鐘が完成したことがわかります。この女性達がどのような方々だったのか、また妙春尼という尼さんがどのような方だったのかは不詳だそうですが、女性達の力強い想いを感じる一文です。

東禅寺は、吉野織部之助が江戸初期に新田開発をした時に作られた寺院ですので、女性達にも開拓精神があつたのかかもしれません。また、千ヶ瀬町の宗建寺本堂にある磬子には、上部の縁に「者個亨磬子一口 者武州多摩郡千ヶ瀬郷檀越齋藤氏利勢女寄付 千吾仙洞山宗建寺以奉 為實岩宗性居士 時安永二癸巳歳十月十四日 見住明州碩宜誌」宗建寺の檀家の齋藤利勢さんが、御主人のために磬子を安永二年（1773）に供養したようです。

神社仏閣の奉納物は、時の権力者や名主など男性がほとんどのようですが、中にはこのように女性による物もあつたようですね。

（文責 棚橋 正道）